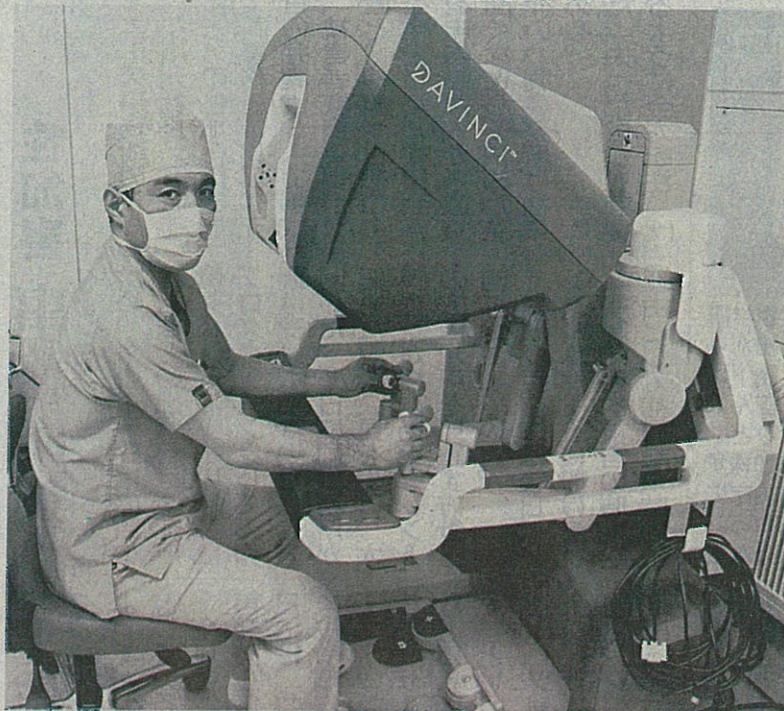


肝がんロボット支援手術

磐田市立病院で保険適用



肝臓がんに対するロボット支援手術の保険適用が、磐田市立総合病院で始まった。ロボット支援手術は腹腔鏡手術の一種で、腹部に小さな穴を開け、医師が立体的な映像を見ながら鉗子や内視鏡を操作する。関節の多い鉗子を使うため、よりスムーズな動きができる利点がある。【山田英之】

県内初

肝がんのロボット支援手術は一定の条件を

満たせば、2022年4月から保険適用されるようになった。

市立総合病院では、経験のある常勤医の配置▽緊急手術の体制整備▽機器の適切な保守管理—などの施設基準を今年7月に満たした。保険適用前の1月～6月にも5件の手術を実施した実績がある。7月に保険適用された後、既に2件の手術を実施した。

保険適用されずに全額自己負担すると医療費が数百万円に上る場合もあるが、保険適用によって患者の自己負担額が低く抑えられ、手術が受けやすくなった。

市立総合病院によると、肝がんのロボット支援手術の保険適用は県内初。市立総合病院で使っているロボット

は最新式のダヴィンチXi。立体的な高解像度の3D映像を見て操作できる。

腹腔鏡手術は腹部を大きく切る開腹手術に比べて傷口が小さいため、出血や術後の痛みが少なく、患者の体への負担が小さく、回復が早い。開腹手術をすると2週間以上入院する場合もある。腹腔鏡手術の場合、入院は1週間以内で済むことが多い。回復が早く4日後に退院した人もいたという。

肝がんのロボット手術を担当する市立総合病院の消化器外科医の神藤修さん(50)は「3D画像は立体感があり、血管などの位置が分かりやすい。ロボットは手ぶれも無く精密な手術ができる」と話している。